



## 第6部 京都先端科学大

# ① 5学部の新総合大学 「産学官民金」が協働

京都先端科学大学は、亀岡市と京都市右京区の太秦にキャンパスを持つ総合大学です。学生の収容定員は4400名。規模で言いますと中規模校ということになります。今年の4月からは、経済経営学部、人文学部、バイオ環境学部、健康医療学部に加えて工学部が参加しており、大学院5研究科も設置しています。

先端科学大という名称で、理系の大学になったのではないかと問われることがありますが、それは違います。工学部を触媒として、各学部の特性を大いに生かして、これまで以上の活動をしていきます。



まえだ・まさふみ 東京大大学院修了。東京大生産技術研究所長、理事・副学長などを経て、2016年に日本電産生産技術研究所長。19年4月から現職。専門は金属生産工学、資源リサイクル。

### 前田 正史 学長



広大な敷地に展開する京都先端科学大の京都亀岡キャンパス(亀岡市曾我部町)

京都亀岡キャンパスには、これまで通り、バイオ環境学部の3学科と健康医療学部の健康スポーツ学科を配置しています。また、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため登校禁止とされていますが、普段は全ての学部の学生は、体を動かすことを通じてコミュニ

ケーション力・リーダーシップ・チームワークを育む体育実技授業のために、週に1回は必ず亀岡に来ております。太秦と亀岡の間には無料のシャトルバスを走らせております。

さらに、このキャンパスの広大な敷地を活用し、産学官民金(産業、大学、自治体、国、地域、NPO、金融)の協働拠点としてさまざまな活動を発信していきます。

たとえば、ドローンスクールを開講していますが、これはバイオ環境学部の丹羽英之准教授と工学部の沖一雄教授の共同研究から実現した活動で、すでに国土交通省の登録を済ませております。次に、超小型の移動体(パーソナルモビリティ)の開発を計画しており、開発施設と評価施設(テストコース)を整備していく予定です。このプロジェ

クトは、インバーター、モーター、制御装置、センサー、信号システムなどのハードの開発もさることながら、社会実装していくうえでは人間の心理と行動、法律条例の整備、ビジネスモデルの構築などが必要であり、本学の総力を挙げて取り組む予定です。

また、社会人教育の拠点として、周辺の工業団地開発との連携で、データサイエンス、シミュレーション、プログラミング言語などのSTEMリカレント教育、初中教育との連携も実施していく計画です。

丹波2市1町にキャンパスを置く大学や大学の現場から、研究や教育、地域貢献などについて報告する「キャンパス通信」。最終シリーズとなる第6部は、京都先端科学大(亀岡市曾我部町)です。